



大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程(大阪府)

活動テーマ 「ゆめ・チャレ」プロジェクト ～ 地域の職業体験を通して「こころを育む」～

活動の概要

「ゆめ・チャレ」とは、「ゆめに向かってチャレンジ」の略称。定時制高校の生徒が中心となり、地域の商店街と協力して、小学生に職業体験をしてもらう活動です。高校生のサポートのもと、小学生は職業体験をして「修了証」と「お給料」(地域通貨)をもらい、商店街のお店で買い物ができます。小学生と高校生のキャリア教育、地域商店街の活性化を目的に行っています。高校生はこの活動により、自分に自信を持ち、他者を思いやる気持ちやボランティア精神を培い、「自己有用感」を高めています。

2013年に第1回を実施(10店舗10体験、応募者107人、参加者68人)以来、体験内容の充実と体験数の増加に力を入れ、2018年の第6回では、31店舗58体験、応募者720人、参加者275人という事業に成長しました。この間新聞やテレビで多数紹介され、近年は府内の高校はもとより、他府県からの視察や講演依頼も増えており、注目されています。



仕事体験後にももらったお給料をうれしそうに持つ小学生と体験をサポートした高校生、協力した地域商店街の方。三者にウィンウィンの関係が成り立つ「ゆめ・チャレ」プロジェクト。

活動の経緯

定時制高校生の 自己有用感を育む

自分に自信が持てず、基本的な生活習慣が身につけていない傾向がある定時制高校生が、小学生や保護者から「ありがとう」という感謝の言葉をもらい、「自己有用感」(自分は社会にとって必要だと思えるところ)を高めることができている。



本格的なユニフォームを着て行う仕事体験。希望者が増えている理由のひとつです。

コミュニケーション能力と 職業観を養う

高校生が企業や店舗から仕事を教えてもらい、それを小学生に教えるという両方の立場を経験することにより、コミュニケーション能力が身につくとともに、働くことの尊さを理解し、よき社会人となるための「職業観」を養っています。



和食店の体験で、小学生にやさしく手を添えて包丁の使い方を教える高校生。

社会貢献に目覚め、 地域の活性化に 取り組む

この活動を通して生徒は社会貢献に目覚め、「ゆめ・チャレ・キャンドルナイト」や「ゆめ・チャレ・ハロウィン」などのイベント、清掃活動やあいさつ運動、他の地域に「ゆめ・チャレ」を広げる活動など、地域の活性化に取り組んでいます。



小学生が仕事体験後にももらったお給料袋。地域通貨800 Yume(800円相当・有効期限1か月)を使って商店街で買い物ができます。

参加者の声

- 地域の方々や小学生にたくさんの「ありがとう」の言葉をいただき、「定時制高校」に誇りを持つことができました。(2年生)
- 「ゆめ・チャレ」により、普段は人通りが少なく、シャッターの目立つ商店街が、たくさんの人で賑わうようになり活気を取り戻した。(2年生)
- 仕事体験中に小学生から頼りにされていることを実感することができた。人の役に立てることがとてもうれしかった。(3年生)
- 単なる「職業体験」ではなく、私たち高校生が、企業・店舗の方々から「仕事」についてさまざまなことを学び、学んだことを小学生に教える。「教えられる側」と「教える側」の両方の立場に立ち、それぞれの「仕事」について深く理解することができた。(3年生)

3つの工夫

進め方の工夫

初回は10体験でスタートし、体験を希望する小学生が年々増加。受け入れ態勢を充実させるため、地域の企業・店舗に活動の趣旨、内容を丁寧に説明し、協力を得られるよう努力しています。小学生の各職業ユニフォームも種類と数を増やしています。

連携の工夫

地域連携をするために一番大切なことは、お互いがウィンウィンの関係になることです。小学生は無料で職業体験ができてお給料がもらえ、高校生はキャリア教育にもなり、企業・店舗側はお給料による買い物で潤う「三方よし」の仕組みです。

継続の工夫

継続している最大のポイントは、企画・運営する高校生、協力していただく企業・店舗、参加する小学生および保護者、関わるすべての人たちが心から楽しんでいることです。さまざまな賞をいただいたり、マスコミに取り上げられることも励みになっています。

将来の活動の 方向性

夜間定時制高校生が「自己有用感」を育みながら未来に希望を持ち、地域の人々をはじめ多くの人が笑顔になれる活動を続けていきます。また、この活動を他地域に広げる広報活動も展開していきたいと考えています。